

石巻健育会病院

症 例 概 要 患者：50代 女性

病名：右視床出血

入院期間：令和3年1月下旬～令和3年6月下旬

2020年12月下旬深夜帯に複数回多量に嘔吐し、日付が変わる頃から体動困難となり、自宅で経過観察していたが、反応低下したため石巻赤十字病院へ緊急搬送となる。来院時JCS100、CTで右視床出血、閉塞性水頭症を認める。同日両側の脳室ドレナージ術を行い、術後に意識障害は改善した。現在はJCS3、中等度の左上下肢麻痺、高次脳機能障害が残存している。リハビリ目的にて当院入院。入院時は意識障害や注意障害、半側空間無視、左上下肢に中等度の運動麻痺、感覚障害や頭部の重苦感や眩暈の症状があり。血圧変動が認められたため、リクライニング車椅子での離床開始となった。他職種連携により歩行や日常生活動作、生活関連動作、自動車運転、復職（塾講師・古本屋経営）の再獲得が可能になり、自宅退院が実現できた症例である。

内 容

入院時の心身機能面として、意識障害、中等度の左上下肢運動麻痺、感覚障害、注意障害や左半側空間無視、全身の筋力低下、頭部重苦感や眩暈が見られました。基本動作は中等度介助が必要な状態で、視覚的な情報がないと立位保持が困難な状態でありました。日常生活動作は食事以外、全てに中～全介助が必要な状態であり、入浴は機械浴での対応となっていました。

目標としては、移動を含めた日常生活動作の自立、主婦としての役割、自動車運転、復職(塾講師・古本屋経営)を目標に介入しました。

高次脳機能障害としては言語機能、全般性の知的機能には当初より問題は見られませんでした。後遺症として複視や左右の視認出来る範囲の縮小、急な方向転換時の眩暈、周辺情報の見落としなどが見られました。また、注意機能低下傾向で課題中に話し込んでしまったり、集中が持続しないといった症状も見られました。

ご本人の復職や運転再開に対する意欲は高く、目標が具体的で自身の抱える問題点や課題に対して真摯に向き合われていたため訓練に対する自発性、能動的な創意工夫などにより訓練効果はセラピストが予測していたものよりも高い水準でした。

経過として、徐々に意識障害は改善し、移動もリクライニング車椅子からフリーハンド歩行が自立とな

り、日常生活動作も全て自立しました。さらにご本人の望んでいる家事動作や自動車運転動作、塾講師・古本屋の経営に関わる全ての動作をご本人から細かに聞き取り評価・練習していきました。その結果、退院時まで眼球運動障害や多少の注意散漫は残存しており、多少の工夫や環境調整が必要ですが、自動車運転以外、元の生活動作が全て行えるようになった。

現在は、当院の通所リハビリと訪問リハビリを利用し、安全な自動車運転再開のためのリハビリを継続しています。

1/29（初回）FIM運動項目19点、認知項目15点。

6/30（最終）FIM運動項目86点、認知項目34点。